

科目名	生物学
学 年	1 年次
単 位	2 単位
時間数	3 2 時間 (8 回)
学習目標	
<p>地球上にどのようにして生物が誕生し、さまざまな生物に進化したのかなどの疑問を解き明かすことで進化した生物学を、</p> <p>I 編<生命></p> <p>II 編<組織と細胞></p> <p>III 編<生命の連続></p> <p>IV 編<環境と動物の反応></p> <p>を通し、「生命とは何か」という一般的な知識を築き、人間の体の成り立ち、仕組み、働きを探究する生命科学を、歯科衛生士の専門的知識の基礎となるように学ぶ。</p>	
授業計画	
<p>I 編<生命> 1 章 生命とは何か</p> <p>2 章 生命の誕生</p> <p>3 章 生命の変遷、を学ぶ</p> <p>II 編<組織と細胞> 1 章 生物は細胞からできている</p> <p>2 章 細胞の一生と個体の成り立ち、を学ぶ</p> <p>III 編<生命の連続> 1 章 生殖によって遺伝子を作る</p> <p>2 章 遺伝と遺伝子</p> <p>3 章 発生して体をつくる、を学ぶ</p> <p>IV 編<環境と動物の反応> 1 章 刺激の受容と反応</p> <p>2 章 内部環境を保つ仕組み</p> <p>3 章 動物の行動と進化、を学ぶ</p>	
授業形式	
講義	
教科書・参考書	
最新歯科衛生士教本 生物学 (医歯薬出版)	
評価の方法	
筆記試験	
備考	
特になし	

科目名	化学
学 年	1 年次
単 位	2 単位
時間数	3 2 時間 (8 回)
学習目標	
<p>化学は、物質の性質、構造、変化に関する学問であり、</p> <p>1 章<物質とは何だろう></p> <p>2 章<気体について知ろう></p> <p>3 章<物質が水に溶けるとは></p> <p>4 章<酸化とは、還元とは></p> <p>5 章<化学反応では原子の組み換えが起こっている></p> <p>6 章<有機化合物とは何だろう></p> <p>7 章<ヒトをつくっているものは何だろう></p> <p>を通し、歯科衛生士として医療に場で求められる種々雑多な歯科材料などの物質を扱う立場として必要な知識の基礎を学ぶ。</p>	
授業計画	
<p>1 章<物質とは何だろう>①物質の分類 ②物質の構造 ③原子の電子配置 ④元素の周期律 ⑤物質の質量 ⑥化学結合、を学ぶ</p> <p>2 章<気体について知ろう>①気体のルール ②空気は何から ③気体を使う</p> <p>3 章<物質が水に溶けるとは>①水溶液の濃さの表わし方、を学ぶ ②希薄水溶液の示す不思議な物質 ③身の回りにはコロイドがいっぱい ④酸とアルカリの水溶液、を学ぶ</p> <p>4 章<酸化とは、還元とは>①酸化と還元 ②金属のイオン化傾向、を学ぶ</p> <p>5 章<化学反応では原子の組み換えが起こっている>①化学反応の速さを決めているもの ②化学平衡って何だろう、を学ぶ</p> <p>6 章<有機化合物とは何だろう>①有機化合物の成り立ち ②有機化合物に名前を付ける ③同じ原子から違った物質が④有機化合物の反応 ⑤代表的な有機化合物と性質 ⑥高分子化合物、を学ぶ</p> <p>7 章<ヒトをつくっているものは何だろう>①水はいたるところに存在する ②ヒトを形作る元素 ③糖質 ④アミノ酸とタンパク質 ⑤脂質 ⑥核酸と拡散関連物質、を学ぶ</p>	
授業形式	
講義	
教科書・参考書	
最新歯科衛生士教本 化学 (医歯薬出版)	
評価の方法	
筆記試験	
備考	
特になし	

科目名	基礎数学
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間 (8 回)
学習目標	
基本的な計算を通して、国家試験に対応できるような力を養い、歯科衛生士業務を行う上で必要な力を身につける。	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 分数の四則演算 2. 小数の四則演算 3. 割合 4. 割合の文章題 5. 統計① 6. 統計② 7. まとめ 8. 国家試験対策 	
授業形式	
講義	
教科書・参考書	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	心理学
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間（4 回）
学習目標	
<p>心理学は、人間理解のための基礎的な知識を提供する学問である。他者を理解するには、まず自己理解が十分にできていることが大切である。この授業では、人間理解のための5つのテーマについての基礎的な知識を学ぶこと、身につけることが目標である。それをベースにして「人間関係論」の授業に結びつけるような展開にしている。</p>	
授業計画	
<p>1. 心理学で学ぶこと（15 章：P.200－208） 心理学（心と行動の科学）、心理学の歴史と研究法 歯科衛生士の仕事と心理学</p> <p>2. 性格を知る（その人らしさの心理－パーソナリティー）（5 章：P.54－65） 性格とは、性格の理論、性格診断（性格検査の種類）、性格の形成</p> <p>3. 知覚とこころ（情報の処理）（1 章：P.2－14） 知覚と情報処理、知覚の成立（ものの見え方）、知覚の歪み（錯覚・錯視） 欲求と知覚</p> <p>4. 発達の心理学（発達するこころ（1）（2））（8 章：P.94－110；9 章：P.112－124） 発達の法則性、発達課題、発達段階、発達の理論（エリクソン、ピアジェ） 胎児期から老年期までの発達段階の特徴</p> <p>5. 高齢者の発達特徴と心理（9 章：P.120－124）（6 章：P.77－79） 高齢者の認知・性格など、高齢者の関わり方・支援のあり方、認知症</p> <p>6. 発達の障害（6 章：P.75－76 知的能力障害）（8 章：P.109－110 神経発達障害） 発達障害とは、知的能力障害、自閉スペクトラム症(ASD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)、学習障害(LD)</p>	
授業形式	
<p>基本は講義形式であるが、内容の理解を促すために映像教材を活用したり、性格検査の実習、知覚や記憶に関する実験の体験などを取り入れることで、興味をもって積極的に授業に取り組めるように工夫している。</p>	
教科書・参考書	
教科書：最新歯科衛生士教本『心理学』 医歯薬出版株式会社	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	人間関係論
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間（4 回）
学習目標	
「心理学」で学んだ基礎的な知識を活用しながら、円滑な社会生活を過ごすために人間関係に関わる主な理論や知識・スキルを学び、習得することを目標にして授業を行う。将来的には、その知識を実生活の中で活用することを意識して受講していただきたい。	
授業計画	
<p>1. 人と関わる心理 ー対人関係の心理学ー（10 章：P.125－134） (1) 対人関係の発達、(2)対人認知（印象形成）、(3)対人魅力の要因、(4) 向社会的行動：愛他的行動、おもいやり、援助行動 （実習）①EQ（情動知能）を調べる。</p> <p>2. 人と集うところー集団の心理学（11 章：P.135－148） (1) 集団の心理、(2) リーダーシップ（PM 理論）、(3) 社会的影響（社会的促進・抑制、同調行動、説得のテクニック、流行とうわさ） （実習）「社会的スキル」を調べる。</p> <p>3. 健康なところ ー適応の心理学ー（12 章：P.149－163） (1)行動のエネルギーとしての欲求、(2) マズローの欲求のヒエラルキー理論、 (3)フラストレーション、(4)コンフリクト、(5)防衛機制、(6)レジリエンス （実習）「エゴグラム」で性格面でのストレスの受けやすさについて調べる。</p> <p>4. ストレスの理解と対処 (1)ストレス反応を知る、(2)ストレスのメカニズム【ラザラスの「認知評価モデル」】、 (3)ストレスを軽減する対処法 （実習）①「ストレス反応、ストレス・コーピング」を調べる。 ②「リラクゼーション」の実習。</p> <p>5. カウンセリングのころころ（13 章：P.165－182）（14 章：P.183－198） (1)歯科衛生士とカウンセリング、(2) カウンセリングの理論（ロジャーズの理論） (3) カウンセリング・マインド、(4)カウンセリングの基礎技法：傾聴：積極的受容・共感的理解；言語的かかわり技法（開いた質問と閉じた質問）、非言語的かかわり技法（姿勢、視線、相づちなど） （実習）カウンセリングの基礎技法の実習：グループに分かれて実習します。 （聞き手と話し手の経験、言語的関わり技法と非言語的関わり技法の使用）</p>	
授業形式	
基本は講義形式であるが、内容の理解を促すために映像教材を活用したり、EQ（情動知能）やストレスへの耐性などを調べるテストを行い、対人関係の基礎についての自己理解を行ったり、カウンセリングの基礎技法である「質問技法」についてグループワークを行うなどの実習を取り入れることで、興味をもって積極的に授業に取り組めるように工夫しています。	
教科書・参考書	
教科書：最新歯科衛生士教本『心理学』 医歯薬出版株式会社	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	社会学
学 年	1 年
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間（4 回）
学習目標	
<p>家族研究の事例や最新のトピックスをあげ、特に現代家族について、考察する。同時に、社会的なものを見方を学ぶことで、歯科衛生士としての役割を考える。</p>	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（授業の概要の説明）、社会学とは何か 2. 家族とは何か <ol style="list-style-type: none"> （1）あなたにとって家族とは？ （2）サザエさんの家族 3. 家庭内の地位と役割 4. 子どもにとって家族とは 5. まとめ（総括） 	
授業形式	
講義形式（適宜、ビデオ教材を使用する）	
教科書・参考書	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	英語 I
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	2 4 時間 (6 回)
学習目標	
<p>① 日常的に使う語らいや表現、また専門用語をテキストを通して学習する。</p> <p>② 歯科衛生士として、現場で外国人患者と簡単なコミュニケーションがとれる。</p> <p>③ 私たちの日常生活にとけこんでいる英語やその文化を意識する。</p>	
授業計画	
<p>1. 医院での、簡単な受付や症状の確認、予約の取り方 (海外旅行にも役立つ表現 I'd like～) (テキスト Unit5～6)</p> <p>2. 歯の呼称、身体の呼称を学び表現の幅を広げる (テキスト Unit7～8)</p> <p>3. 患者さんの症状を詳しく尋ねる (現在完了) (テキスト Unit9～10)</p> <p>4. 患者さんに案内や説明をする (命令文・未来形) (テキスト Unit11～12)</p> <p>5. 患者さんに薬の説明をする等、役立つ表現の学習 (テキスト Unit13)</p> <p>6. 歯の健康を指導する (should、助動詞) (テキスト Unit14～15)</p>	
授業形式	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義 ・ ロールプレイによる会話練習 ・ チェックテスト (5～10 分間) 	
教科書・参考書	
歯科用英語ハンドブック 即戦力のトレーニング・適宜プリント類	
評価の方法	
① 単位試験 (60%) ② 提出物 (20%) ③ 授業中の取り組み (20%)	
備考	
<ul style="list-style-type: none"> ・ テキスト Unit1～5 については夏休みに自習をする。(プリント配布) ・ 課題 (EXERCISE No.1・No.2) と不規則変化動詞を覚えよう。 ・ 課題は初回の講義に提出してもらいます。 ・ 不規則変化動詞は講義内でチェックテストを行います。 	

科目名	英語Ⅱ
学 年	2年次
単 位	1単位
時間数	16時間(10回)
学習目標	このコースの目的は、一般的な英会話と歯科臨床に特化した英会話のレベルを向上させることであり、日本語を話すことができない患者と英語で安心してコミュニケーションがとれるよう、有用で効果的なストラテジーを提供することである。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、自己紹介、受付</p> <p>第2回 呼び出しと案内</p> <p>第3回 医療面接</p> <p>第4回 口腔ケアに関する医療面接</p> <p>第5回 基本動作</p> <p>第6回 歯周検査</p> <p>第7回 スケーリング</p> <p>第8回 歯磨き指導</p> <p>第9回 支払いと次回の予約</p> <p>第10回 学習内容の確認</p>
授業形式	
講義形式	
教科書・参考書	<p>歯科衛生士英語ワークブック</p> <p>永末書店</p> <p>【監修】山本 一世 【編著】藤田 淳一</p> <p>【著者】岡 隼人、寺島 雅子、井村 和希、Julia Gadd、Brian Bachman</p>
評価の方法	
	<p>授業に積極的に参加する 30%</p> <p>宿題 40%</p> <p>筆記試験 30%</p>
備考	

科目名	国語表現
学 年	1年次
単 位	1単位
時間数	16時間（8回）
学習目標	文章を表現に即して的確に理解できる力を身につけ、適切な表現力を身につける。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「まず伝わってこそ文章」・「自己紹介文」を書いて提出する。 2. 小テスト・「文章の書き方」・小論文の書き方 3. 小テスト・「わかりやすい表現」・悪文訂正 4. 小テスト・「表現の工夫」・接続の言葉 5. 小テスト・「言葉のキャッチボール」・同音異義語 同訓異字 6. 小テスト・「理想的な日本語生活を」・本居宣長「もののあはれ」 7. 小テスト・「漢字と日本文化」・四字熟語 8. 小テスト・「敬語の分類」・敬語の練習 <p>※毎回プリントを配布し、内容を理解する。課題プリント有り。 ※2回目以降は毎回小テストを実施する。</p>
授業形式	教科書・プリントなどを用いながらの文章表現・意見発表 講義
教科書・参考書	
評価の方法	筆記試験（80%） レポート・小テスト（20%）
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	解剖学（組織・発生学含む）
学 年	1 年次
単 位	2 単位
時間数	4 8 時間（12 回）
学習目標	
<p>人体解剖学は医学の全ての学問の最も基礎となる学問で、身体の構造を学ぶ学問である。その対象はヒトである。解剖学には臨床の場と同じように生身の身体を対象とする「肉眼解剖学」と、より細かなところの構造を顕微鏡を用いて観察する「顕微解剖学＝組織学」とがある。口腔を含む顎顔面部は独立して存在するのではなく、全身の一部であり、全身と深く関わりをもっている。歯科領域に現れる疾患の多くも同様に全身状態と関わっている。解剖・組織学においては、歯を除く顎顔面部を主体にヒトの「からだ」の構造について学ぶ。また、ヒトが成長・発育する過程である発生学も合わせて学修する。</p>	
授業計画	
1	解剖 総論 骨系（総論）
2	骨系（各論）
3	内・外頭蓋底 筋系
4	筋系
5	中間試験 骨学実習
6	組織（総論）
7	組織（各論）
8	内臓系（総論） 消化器系（総論・各論1）
9	消化器系（各論2） 呼吸器系
10	泌尿器系 生殖器系 発生
11	発生学
12	内分泌系 脈管系（総論）
13	脈管系（動脈系） 脈管系（静脈・リンパ系）
14	神経系（総論） 神経系（中枢神経）
15	神経系（末梢神経） 感覚器系
授業形式	
1～15	板書およびパソコンによる映写による授業（講義）
5	骨模型を用いた実習
教科書・参考書	
「学生のための 解剖・組織・発生学」医歯薬出版	
評価の方法	
小テスト（25%）、本試験（70%）、骨実習レポート点（5%）による評価	
備考	
小テストは牧草先生の講義で実施	

科目名	口腔解剖・組織学
学 年	1 年次
単 位	2 単位
時間数	4 8 時間 (12 回)
学習目標	口腔解剖学は歯科医学の基礎をなす学問分野である。歯の形態（永久歯、乳歯）と機能、歯列と咬合および歯の異常を肉眼レベルで理解する。また、光学顕微鏡レベルでの歯系組織の構造と機能、発生過程および加齢変化を理解する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総論（方向用語、歯の記号、歯式、歯と歯周組織の概略） 2. 総論（解剖学的名称、歯に共通する形態的特徴、比較解剖学） 3. 永久歯（切歯） 歯の発生 4. 永久歯（犬歯） エナメル質 5. 永久歯（上顎小白歯） 象牙質・歯髄 6. 永久歯（下顎小白歯） セメント質 7. 永久歯（上顎大白歯） 歯槽骨 8. 永久歯（下顎大白歯） 歯根膜 9. 歯の異常 口腔粘膜 歯肉 10. 歯列・咬合 乳歯 11. 顕微鏡実習（エナメル質、象牙質、歯髄） 12. 総まとめ
授業形式	
講義と実習	
教科書・参考書	歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学（医歯薬出版）
評価の方法	
筆記試験	（単位試験 92% レポート点 8%）
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	生理学
学 年	1 年次
単 位	2 単位
時間数	4 8 時間 (12 回)
学習目標	<p>生体を構成している諸器官とそれら諸器官同士との関連について理解する。</p>
授業計画	<p>生理学は一般生理学と口腔生理学とに分けられる。 一般生理学としては細胞、体液、循環、呼吸、消化、排泄、体温、内分泌、筋、神経および感覚について。 口腔生理学としては歯周組織、顎運動、咀嚼および吸啜、嚥下および嘔吐、唾液、口腔の感覚および発音について講義する。 項目に分けると多くの分野になるが、すべての分野は大なり小なりの共同作業を行っている。 したがって、これらの関連性について幅広く理解できるように講義する。</p>
授業形式	<p>板書およびスライドで、講義を行う。</p>
教科書・参考書	<p>歯科衛生士テキスト生理学（覚道幸男他・学建書院）</p>
評価の方法	
筆記試験	
備考	<p>サブノートを必ず作成し、徹底した復習を行うこと。</p>

科目名	生化学（栄養学含む）
学 年	1 学年
単 位	2 単位
時間数	4 8 時間（12 回）
学習目標	健康維持には栄養、運動および休養が重要であることを踏まえ、具体的な栄養のあり方を理解するために、生命の営みに必要な栄養素の代謝過程や生体内機能、さらに口腔領域との関わりを学ぶとともに、基礎となる生化学的思考法（分子レベルでの生命現象の捉え方）を身につける。
授業計画	<p>I. 生命活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 生体構成成分と栄養素 酵素の種類と役割 ビタミン・ミネラルの種類と役割 糖質の生体内機能 脂質の生体内機能 アミノ酸・タンパク質の生体内機能 代謝調節と恒常性維持 <p>II. 歯と口腔の生化学</p> <ul style="list-style-type: none"> 歯・歯周組織の構造と機能 唾液の役割 う蝕の発症と代用甘味料 <p>III. 栄養の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本人の食事摂取基準（2020 年版） 食生活と食品 ライフステージと栄養
授業形式	講義（12 回）
教科書・参考書	最新 歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝（医歯薬出版）
評価の方法	筆記試験
備考	将来受験する歯科衛生士国家試験のために有用なノートを丁寧に作成すること。

実務経験のある教員による授業科目

科目名	医学概論（内科学含む）
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	20 時間（5 回）
学習目標	歯・口腔領域は全身の一部であり、全身疾患の部分症状が口腔に現れたり、全身疾患が歯・口腔疾患に影響を及ぼすことがある。逆に歯周病のように口腔疾患が全身疾患に影響を及ぼすこともある。また高齢化社会を迎え、全身疾患を有する患者の歯科診療の機会が増大している。そこで、歯科医療、口腔ケアに関わる歯科衛生士も全身疾患の基礎知識を理解することは重要であり、特に歯科医療に関連の深い全身疾患を主体に学ぶ。
授業計画	1. 肝疾患、甲状腺疾患、心身症 2. 糖尿病、脳血管障害、神経疾患、リウマチ・アレルギー性疾患 3. 高血圧・心疾患、呼吸器疾患、消化管疾患 4. 感染症、血液疾患、腎疾患 5. 口腔内科学
授業形式	講義：プリント、パワーポイント使用
教科書・参考書	歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック（医師薬出版）
評価の方法	筆記試験
備考	

科目名	病理学														
学 年	1 年次														
単 位	2 単位														
時間数	4 8 時間 (12 回)														
学習目標															
<p>病理学では病気とは何かを学びます。すなわち病気とは正常な形態や機能を逸脱した状態で、病気の原因（病因）、どのようにして発生するのは（発生機序）、どの部位に発生しやすいのか（好発）、どのような特徴があるのか（所見）、病気の結果どうなるのか（予後）について学びます。病気概念を学んだのち、口腔顎顔面領域に発生する病気（疾患）について理解することで、臨床上での予防と治療へとつなげることを目標とします。</p>															
授業計画															
<table border="0"> <tr> <td>1. 病理学概論・病因論 先天異常</td> <td>6. 歯の沈着物と着色 う蝕</td> </tr> <tr> <td>2. 循環障害</td> <td>7. 歯髄・根尖部歯周組織・顎骨の病変</td> </tr> <tr> <td>3. 代謝障害 増殖と修復</td> <td>8. 歯周組織の病変</td> </tr> <tr> <td>4. 炎症と免疫</td> <td>9. 歯の異常</td> </tr> <tr> <td>5. 腫瘍</td> <td>10. 歯の機械的損傷・化学的損傷 口腔の創傷治癒</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11. 口腔領域の粘膜病変・奇形・嚢胞・腫瘍</td> </tr> <tr> <td></td> <td>12. 唾液腺の疾患 総復習</td> </tr> </table>		1. 病理学概論・病因論 先天異常	6. 歯の沈着物と着色 う蝕	2. 循環障害	7. 歯髄・根尖部歯周組織・顎骨の病変	3. 代謝障害 増殖と修復	8. 歯周組織の病変	4. 炎症と免疫	9. 歯の異常	5. 腫瘍	10. 歯の機械的損傷・化学的損傷 口腔の創傷治癒		11. 口腔領域の粘膜病変・奇形・嚢胞・腫瘍		12. 唾液腺の疾患 総復習
1. 病理学概論・病因論 先天異常	6. 歯の沈着物と着色 う蝕														
2. 循環障害	7. 歯髄・根尖部歯周組織・顎骨の病変														
3. 代謝障害 増殖と修復	8. 歯周組織の病変														
4. 炎症と免疫	9. 歯の異常														
5. 腫瘍	10. 歯の機械的損傷・化学的損傷 口腔の創傷治癒														
	11. 口腔領域の粘膜病変・奇形・嚢胞・腫瘍														
	12. 唾液腺の疾患 総復習														
授業形式															
講義															
教科書・参考書															
<p>新・歯科衛生士教育マニュアル 病理学：クインテッセンス出版 第3版 病理学総論にもとづく口腔病理学：永末書店（参考書籍）</p>															
評価の方法															
筆記試験															
備考															
<p>講義は主に教科書とスライドを用いて行います。教科書を元に、スライドや口頭で補足しながら説明します。解剖学や生理学など、他科目にも関連する内容がありますので、他科目の復習も大切にして下さい。</p>															

実務経験のある教員による授業科目

科目名	微生物学
学 年	1年次
単 位	2単位
時間数	48時間（12回）
学習目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症の種類や発病について、概要を説明できる。 2. 微生物の分類、形態、機能、増殖、遺伝、病原性について理解し、感染予防や治療法について説明できる。 3. 微生物に対する免疫担当細胞の役割、免疫の一連の流れを理解し、生体に備わる防御機構を説明できる。 4. 口腔微生物の種類と発病について説明できる。 5. 細菌を実際にハンドリングすることにより、無菌操作の概念と技能を習得する。 	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物学総論 2～3. 細菌 4. ウイルス 5. 真菌, 原虫 6. 滅菌と消毒 7. 口腔細菌 8. 免疫 9～12. 微生物学実習 	
授業形式	
講義, 実習	
教科書・参考書	
最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2 微生物学 (医歯薬出版)	
評価の方法	
科目試験 (90%), 実習レポート (10%) を総合して評価する	
備考	

科目名	薬理学
学 年	1 年次
単 位	2 単位
時間数	3 2 時間（8 回）
学習目標	薬理学とは薬物と生体との特異的な相互作用を研究する学問である。疾病の治療や予防、診断における薬物の知識を習得し、診療において応用できる衛生士を養成する。
授業計画	<p>総論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 薬物の作用（薬物療法、薬理作用、作用機序、用量反応曲線） 2 薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄、パラメーター） 3 薬物の適法方法の種類と特徴（適用方法、生物学的利用能） 4 薬物の作用に影響を与える因子（連用、併用、相互作用） 5 薬物の副作用 ライフステージと薬物の注意点 6 薬物の取り扱い（剤形、処方箋、調合、保存、法律） <p>各論</p> <ol style="list-style-type: none"> 7 ビタミン・ホルモン 8 末梢神経系に作用する薬物（交感神経作用薬、副交感神経作用薬、運動神経作用薬） 9 中枢神経系に作用する薬物（全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬、抗痙攣薬、向精神薬） 1 0 循環器系に作用する薬物（高血圧/不整脈/狭心症/脂質異常症 治療薬） 1 1 呼吸器系/消化器系/免疫系に作用する薬物 1 2 血液に作用する薬物（止血薬、抗凝固薬） 1 3 悪性腫瘍/代謝性疾患に作用する薬物（抗悪性腫瘍薬、糖尿病/骨粗鬆症 治療薬） 1 4 抗炎症薬、鎮痛薬、局所麻酔薬 1 5 抗感染症薬、消毒薬、漢方薬 1 6 齶蝕/歯内治療/歯周疾患/顎・口腔粘膜に関する薬物
授業形式	<p>国家試験に向けた内容、薬物を中心に、プリントやパワーポイントで講義内容を補足し、他の教科との関連も説明しながら、より深い理解、知識の獲得を目指す。</p> <p>講義形式</p>
教科書・参考書	<p>疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 薬理学（医歯薬出版）</p>
評価の方法	<p>小テスト(20点)・中間テスト(30点)、単位試験(50点)で評価する。</p>
備考	<p>小テスト：4 択問題（初日・中間・最終日を除く、計 5 回で行う）</p> <p>中間テスト：記述を含む（総論終了後の次の講義で行う）</p> <p>単位試験：マーク（令和 6 年度）</p>

実務経験のある教員による授業科目

科目名	衛生学・公衆衛生学
学 年	1 年次
単 位	2 単位
時間数	40 時間 (10 回)
学習目標	<p>本講義の学習目標は次の 3 点である.</p> <p>① 自己の健康観の構築</p> <p>② 健康増進および疾病予防を達成するための方法論</p> <p>③ わが国の保健水準および公衆衛生活動の現状の把握</p>
授業計画	<p>①健康の概念, 予防の考え方</p> <p>②人口問題</p> <p>③環境衛生</p> <p>④感染症予防および食品衛生</p> <p>⑤疫学</p> <p>⑥母子保健および学校保健</p> <p>⑦産業保健, 地域保健および成人保健</p>
授業形式	
講義	
教科書・参考書	
	デンタルスタッフの衛生学・公衆衛生学 (医歯薬出版)
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	口腔衛生学 I
学 年	1 年次
単 位	2 単位
時間数	40 時間 (10 回)
学習目標	個人および集団を対象とした口腔の健康の保持増進と歯科疾患の予防について、問題発見解決型志向を目指した口腔衛生的思考能力および実践能力の習得。
授業計画	<ol style="list-style-type: none">① 口腔衛生学概論② 歯と口腔環境③ 歯口清掃④ う蝕の予防 (う蝕発生要因・う蝕発生メカニズム)⑤ う蝕の予防 (う蝕活動性とう蝕リスク・発生要因別う蝕予防法)⑥ う蝕の予防 (フッ化物によるう蝕予防)⑦ 歯周疾患の予防⑧ 歯周疾患のリスクファクター⑨ 不正咬合の予防・口臭の予防⑩ 口腔疾患の疫学
授業形式	講義
教科書・参考書	新歯科衛生士テキスト 口腔衛生学—口腔保健統計を含む— (学建書院)
評価の方法	筆記試験
備考	

科目名	口腔衛生学Ⅱ
学 年	1 年次
単 位	2 単位
時間数	3 2 時間 (8 回)
学習目標	
個人および集団を対象とした口腔の健康の保持増進と歯科疾患の予防について、問題発見解決型志向を目指した口腔衛生的思考能力および実践能力の習得。	
授業計画	
① } 口腔保健の現状 (村田先生) ② } 母子歯科保健・学校歯科保健 (村田先生) ③ } ④ } 産業歯科保健・成人歯科保健・老人歯科保健 (村田先生) ⑤ 実習説明 (日吉先生) ⑥ 実習 1:口腔内診査 (村田先生・日吉先生) ⑦ 実習 2:う蝕活動性試験・歯口清掃 (村田先生・日吉先生) ⑧ まとめ (日吉先生)	
授業形式	
実習および講義	
教科書・参考書	
新歯科衛生士テキスト 口腔衛生学－口腔保健統計を含む－ (学建書院)	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	衛生行政
学 年	2年次
単 位	1単位
時間数	16時間（4回）
学習目標	将来保健医療福祉の担い手として、住民・患者に質の高い生活を送るうえで必要なサービスが提供できるよう、歯科領域に関係する社会制度および社会状況について学習し、理解することを目標とする。
授業計画	<p>3時間の講義を4回実施する。概ね下記の予定で行う。</p> <p>○ 第1回 わが国の医療制度と歯科衛生士（1／2） はじめに、わが国の医療制度、医療法、歯科医師法、歯科衛生士法</p> <p>○ 第2回 わが国の医療制度と歯科衛生士（2／2） 歯科衛生士法（つづき）、歯科技工士法</p> <p>○ 第3回 医療関係職種 歯科医療と関わる医療関係者、保健師助産師看護師法、臨床検査技師等に関する法律、診療放射線技師法、薬剤師法、その他の医療関係職種に係る法律</p> <p>○ 第4回 その他の関係法規 地域包括ケアシステム、地域保健に関連する法律、歯科口腔保健の推進に関する法律、薬事に関連する法規、その他の衛生法規</p>
授業形式	講義形式
教科書・参考書	歯科衛生学シリーズ「保健・医療・福祉の制度」医歯薬出版
評価の方法	筆記試験
備考	インターネットを用いて必要な情報を自分自身で入手できる能力や環境があると、さらに理解を深めることができるので、その点準備をお願いします。

科目名	社会福祉
学 年	2年次
単 位	1単位
時間数	16時間（4回）
学習目標	
社会福祉にまつわる動向（制度やサービス）を学ぶことによって、より歯科衛生士としてのあり方について学ぶ。	
授業計画	
社会学的な視角をより現場で組み立てるために、社会福祉の動向（制度やサービス）についてわかりやすく解説を行いたい。	
授業形式	
講義形式（場合によっては視聴覚教材を使用する場合もある）	
教科書・参考書	
「歯科衛生士と法律と制度」（医歯薬出版）	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	歯科衛生士概論 I
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間 (4 回)
学習目標	<p>高齢化に伴い疾病構造が変化してきています。国民の衛生知識の向上にともない歯と全身との関係等歯の健康に対する国民の関心が高まるにつれ、保健指導や予防処置等の業務を通じて、国民の健康づくりに従事する歯科衛生士の役割が重要になってきています。歯科衛生士としての知識、技術、倫理等の概要について説明する。</p>
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①歯科医療（臨床）とは ②医の倫理とインフォームドコンセント ③歯科医療の特異性 ④歯科患者の特徴 ⑤歯科疾患の概要 ⑥歯科診療の流れの概要 ⑦滅菌と消毒 ⑧歯科材料 ⑨歯科臨床とエックス線
授業形式	
講義	
教科書・参考書	
歯科臨床概論	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	歯科衛生士概論Ⅱ
学 年	1年次
単 位	1単位
時間数	16時間（4回）
学習目標	
<p>歯科衛生士の業務を実践して人々の健康づくりを支援するために、保健医療人としての基本的態度を理解し、多様な科目において知識・技術を習得する態度および倫理的思考法の基礎を習得する。</p>	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1 歯科衛生学とは 歯科衛生士法と歯科衛生業務 2 歯科衛生士の義務 歯科衛生士として求められる技能 3 歯科衛生士と医療倫理 歯科衛生士の動向 4 歯科衛生活動の場 歯科衛生士と組織 	
授業形式	
講義 演習	
教科書・参考書	
最新歯科衛生士教本「歯科衛生学総論」（医歯薬出版）	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	保存修復学
学 年	2年次
単 位	1単位
時間数	24時間（6回）
学習目標	
<p>う蝕に代表される歯の硬組織疾患や形態異常の発生から病変の移行、そして損なわれた形態や機能、審美性を改善、再発を予防する歯科治療の内容を理解することで歯科衛生士として必要な知識を習得する。</p> <p>また実際の診断法、治療方法を理解することで歯科衛生士として意図を持ち、診療補助業務に役立つ知識、技術を習得する事を目標とする。</p> <p>保存修復学を臨床科目の基礎として位置付け、広く臨床応用できるよう理解を深める。</p>	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保存修復学総論 2. う蝕の分類・発生・診査・診断 3. 歯髄保存療法 4. 直接修復法 5. 間接修復法 6. ホワイトニング、審美修復 7. 実習 	
授業形式	
教科書とプリントを教材として、PCによるスライドプレゼンテーションを利用して行う。 (講義)	
教科書・参考書	
最新 保存修復学・歯内療法学, 全国歯科衛生士教育協議会 編集, 医歯薬出版	
評価の方法	
筆記試験（多肢選択式、国家試験出題形式に準じる）	
備考	

科目名	歯内治療学
学 年	2年次
単 位	1単位
時間数	24時間（6回）
学習目標	歯髄疾患および根尖性歯周疾患の正しい診断と適切な治療方針を理解し、診療補助者としての的確な行動および患者への説明が出来るように知識および技能を習得する。
授業計画	<p style="text-align: center;">学生の行動目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 歯内治療（療法）学の内容、歯内治療に関する歯の解剖および歯周組織の特徴を説明できる。 歯髄疾患の概要、原因、進行および分類を説明できる。 歯髄疾患の検査法を説明できる。 各種歯髄疾患の症状の説明および診断ができる。歯髄疾患の鑑別診断ができる。 歯髄疾患の治療法：歯髄保存療法（歯髄鎮痛消炎、覆髄）を説明できる。 歯髄疾患の治療法：歯髄一部除去療法（生活歯髄切断法）とアペキシゲネーシスを説明できる。 歯髄疾患の治療法：歯髄全部除去療法（直接抜髄法；麻酔抜髄法）を説明できる。 根尖性歯周疾患の概要、原因、進行および分類を説明できる。 根尖性歯周疾患の検査法および治療方針を説明できる。 感染根管の概要を説明できる。 感染根管の基本的な治療法・術式を説明できる。 根管の消毒（根管消毒薬）および根管内細菌培養検査を説明できる。 根管充填の概要および術式等を説明できる。 アペキシフィケーションを説明できる。 歯の外傷および外科的歯内療法を説明できる。 歯内治療における安全対策について説明できる。
授業形式	板書を中心として視覚素材（パワーポイント）を用いる。（講義）
教科書・参考書	クインテッセンス出版 新歯科衛生士教育マニュアル 歯内治療 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	歯周病学
学 年	2年次
単 位	1単位
時間数	24時間（6回）
学習目標	歯周療法の基礎知識、臨床への応用力を修得する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none">1. 歯周病とは 歯周組織の解剖・組織・生理、歯周病の病態2. 歯周病のリスクファクター、歯周病の検査3. 歯周病の分類4. 歯周基本治療、薬物療法5. 歯周外科6. ペリオドンタルメディシン、根分岐部病変、メンテナンス
授業形式	スライドによる視覚素材 ホワイトボードを用いての記述 講義
教科書・参考書	永末 歯科衛生士講座歯周病学 第5版
評価の方法	筆記試験、多岐選択試験（90%） 小テスト（10%）
備考	

科目名	歯科補綴学
学 年	2年次
単 位	1単位
時間数	28時間（7回）
学習目標	
<p>歯科補綴学の目的は、歯質・歯・顎の欠損をクラウン、ブリッジ、義歯、インプラントなどの人工装置を用いて補い、顎口腔系の機能と審美性を回復させることである。補綴治療を円滑に進めるためには、専門的教育が行われた歯科衛生士の協力は必然であることから本講義では歯科補綴学の基本的知識と診療補助、術前・術中・術後口腔ケア、補綴装置の管理などが行える知識を習得することを目標とする。</p>	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> ① 歯科補綴学の概要 補綴歯科治療の意義と目的・補綴装置の種類について ② 補綴歯科治療にかかわるの基礎知識補・下顎運動と咬合器 ③ 全部床義歯の種類と治療の流れ ④ クラウンの種類と治療の流れ ⑤ ブリッジの種類と治療の流れ ⑥ 部分床義歯の種類と治療の流れ ⑦ インプラント治療と特殊な補綴装置 	
授業形式	
講義	
教科書・参考書	
<p>最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴学 医歯薬出版 最新歯科技工士教本 有床義歯技工学 医歯薬出版（参考図書）</p>	
評価の方法	
筆記試験	
備考	
<p>歯科補綴学では解剖学、生理学、歯科材料学の知識が不可欠であるため、該当科目の教科書なども参考にすると良い レポート課題あり</p>	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	口腔外科学	
学 年	2年次	
単 位	1単位	
時間数	28時間（7回）	
学習目標	<p>口腔外科疾患について学び、その処置および対応について理解する。また、清潔・不潔の区別ができ、適切な口腔外科処置の対応を学ぶ。治療術式・器具について理解し、的確な処置を行えるように履修する。</p>	
授業計画	<p>1 口腔外科と全身疾患との関連 2 先天異常（唇顎口蓋裂）・顎変形症 3 外傷・損傷 4 口腔粘膜疾患 5 口腔領域の炎症性疾患 6 顎関節疾患 7 嚢胞性疾患 8 腫瘍・前癌病変・腫瘍類似疾患 9 唾液腺疾患 10 神経疾患 11 血液疾患と出血性素因 12 口腔顔面の症候群 13 診察と診断 14 滅菌と消毒 15 創傷処置 16 抜歯術 17 口腔外科小手術と診療介助 18 口腔出血に対する処置法</p> <p>疾患・介助について講義および画像を供覧する。 口腔外科診療における要点等を概説する。</p>	
授業形式	<p>講義とパワーポイントによる画像閲覧、抜歯器具の確認</p>	
教科書・参考書	<p>歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学（医歯薬出版）</p>	
評価の方法	<p>筆記試験</p>	
備考		

科目名	小児歯科学
学 年	2年次
単 位	1単位
時間数	24時間（6回）
学習目標	
<p>小児の口腔領域の正常な発育をはかるために、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全な発育を育成するための理論や方法を習得する。 ・健全な発育を障害する異常や疾患の予防と治療について習得する。 ・小児歯科診療における歯科衛生士の役割について理解する。 	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 心身の発育、小児の生理的特徴、顔面頭蓋の発育 2) 歯の発育とその異常、歯列・咬合の発育と異常 乳歯・幼若永久歯の特徴、乳歯・幼若永久歯齲蝕、齲蝕予防 3) 小児歯科診療における補助（小児の対応法、歯冠修復） ※復習テスト1回目（1・2回目の内容） 4) 小児歯科診療における補助（歯内治療、歯周疾患、粘膜疾患） 5) 小児歯科診療における補助（外科処置、外傷、咬合誘導） ※復習テスト2回目（3・4回目の内容） 6) 小児歯科診療における補助（障碍児の治療および対応法、総括） 	
授業形式	
パワーポイントを用いて講義を行う。	
教科書・参考書	
クインテッセンス出版株式会社 新・歯科衛生士教育マニュアル 小児歯科学	
評価の方法	
<p>復習テスト、定期試験で総合的に評価する。</p> <p>10% 、 90% ←令和6年度</p>	
備考	

科目名	歯科矯正学
学 年	2年次
単 位	1単位
時間数	24時間（6回）
学習目標	
歯科矯正の基礎と、矯正診療における歯科衛生士の役割について理解させる	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科矯正学概論 2. 成長、発育、咬合、口腔習癖 3. 成長、発育、咬合、口腔習癖 4. 矯正治療の生物力学 5. 矯正診断に関する知識 6. 矯正装置について 7. 歯科矯正治療の実際 8. 歯科矯正における歯科衛生士の役割 	
授業形式	
講義	
教科書・参考書	
最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正（医歯薬出版）	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	歯科放射線学
学 年	2年次
単 位	1単位
時間数	24時間（6回）
学習目標	<p>エックス線を含む放射線に関する正しい知識を持ち、医療におけるエックス線の役割を認識することで、歯科治療におけるエックス線の重要性を理解してもらう。その上で診療補助内でのエックス線撮影装置の取り扱い、そして口外法および口内法撮影時の歯科衛生士としての手技と役割を修得する事を旨とする。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 放射線とエックス線 2. 歯科用エックス線装置/エックス線画像の形成 3. エックス線画像の形成/撮影法（口内法） 4. 撮影法（口内法）/撮影法（口外法） 5. フィルム処理と取り扱い/デジタルエックス線システム 6. 撮影相互実習 7. 撮影相互実習/画像解説/放射線生物学 8. 放射線生物学/放射線防護
授業形式	講義 スライド 実習
教科書・参考書	わかりやすい歯科放射線学（学建書院）
評価の方法	筆記試験
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	麻酔・全身管理学（救急蘇生法含む）
学 年	2年次
単 位	1単位
時間数	20時間（5回）
学習目標	<p>歯科麻酔学とは、歯科治療や手術中の痛みを取り除くだけでなく、安全で快適な歯科医療を行うための全身管理学である。歯科治療時やスケーリング中にも全身的偶発症が発生する可能性がある。そこで、歯科衛生士にも血圧や脈拍などのバイタルサインの評価、救急蘇生を含む緊急時の対応について、その基礎を理解すると同時に、適切な診療補助行為が求められる。さらに、近年、歯科においても循環器系を中心とした全身的な疾患をもった患者の受診が増加している。これら患者の歯科治療時における全身的な管理の補助が求められる。</p>
授業計画	<p>講義内容は以下の通りである。歯科麻酔学の必要性、基本的な知識の習得を過去の国家試験問題を取り入れて行う予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科麻酔学概論 ・ 局所麻酔 ・ バイタルサイン・生体情報モニターの読み方 ・ 有病者の歯科治療 ・ 精神鎮静法 ・ 全身麻酔法 ・ 歯科治療時の全身的合併症 ・ 救急救命処置 <p>また、実習はトレーニング用マネキンを使用し一次救命処置（胸骨圧迫、A E D の使用）を行う。</p>
授業形式	
講義 4回 実習 1回	
教科書・参考書	<p>歯科衛生士テキスト 歯科麻酔学・全身管理学（学建書院）</p>
評価の方法	
筆記試験 100点満点 60点以上。合格一次救命処置実習試験 100点満点 100点合格。両試験に合格すること	
備考	<p>実習では、髪の毛は束ね、動きやすい服装・靴を着用すること</p>

科目名	総合領域Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
学 年	3年生
単 位	5単位
時間数	104時間（26回）
学習目標	国家試験対策として専門基礎および専門分野の復習講義を実施し、知識の再確認に努める。
授業計画	①専門基礎講義 （解剖学 口腔解剖学 生理学 生化学 病理学 微生物学 薬理学 衛生学 口腔衛生学Ⅰ、Ⅱ） ②専門分野講義 （保存修復学 歯内治療学 歯周病学 歯科補綴学 口腔外科学 小児歯科学 歯科矯正学 歯科放射線学 麻酔学 臨床検査 高齢者歯科学 障害者歯科 歯科予防処置 歯科保健指導 歯科診療補助）
授業形式	
講義	
教科書・参考書	
各教科書	
評価の方法	
単位試験	
備考	

科目名	歯科予防処置論 I
学年	1 年次
単位	2 単位
時間数	40 時間 (10 回)
学習目標	
<p>1. 歯科予防処置についての専門知識と技術、及び態度を習得する目的を理解する為にその概要を学ぶ。</p> <p>2. 歯周病を予防し、歯と口腔の健康を維持増進させるための専門的な知識、基本操作及び態度を習得する。</p>	
授業計画	
1	【講義】 歯科予防処置論の概要・口腔の構造と歯周組織について
2	【講義】 口腔内の付着物沈着物について・歯周病について
3	【講義】 歯周疾患の指数・口腔内検査について
4	【講義・実習】 インstrumentについて
5	【実習】 Instrumentの基本操作法について
6	【実習】 エキスプローラー操作法
7	【実習】 歯周ポケット検査法
8	【実習】 シックル型スケーラー操作法
9	【実習】 キュレット型スケーラー操作法
10	実技試験
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	
最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」	
評価の方法	
筆記試験と、実技試験の両試験に合格すること	
備考	

科目名	歯科予防処置論Ⅱ
学年	2年次
単位	2単位
時間数	60時間（15回）
学習目標	
う蝕予防処置の目的と内容を理解し、薬剤・材料を適切に取り扱う事が出来る。	
授業計画	
1	う蝕予防処置とは・う蝕について・フッ化物、フッ化物の毒性について
2	フッ化物応用方法・フッ化物の集団応用・その他のフッ化物応用
3	フッ化物局所応用実習1
4	フッ化物局所応用実習2
5	う蝕活動性試験・予防プログラム・小窩裂溝填塞法
6	う蝕活動性試験（カリオグラム）
7	小窩裂溝填塞実習
8	う蝕予防の為の歯面清掃
9	小学校フッ化物塗布実習説明
10～14	フッ化物集団応用（奈良市フッ化物塗布実習）
15	う蝕予防の為の歯面清掃実習
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	
最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	歯科予防処置論Ⅲ
学年	1年次
単位	2単位
時間数	64時間（16回）
学習目標	
<p>1. 安全なインスツルメンテーションを実施するために、術者と患者の位置関係を理解するとともに、部位別のスケーリング操作法、口腔内検査法を習得する。</p> <p>2. 手用スケーラーのシャープニング法を習得する。</p> <p>3. 歯面研磨・歯面清掃の基本操作を習得する。</p> <p>4. 超音波スケーラー・エアスケーラーの基本操作を習得する。</p>	
授業計画	
1	基本設定について
2	上顎前歯部のマネキン実習（シックル型・キュレット型）
3	下顎前歯部のマネキン実習（シックル型・キュレット型）
4	下顎左側臼歯部のマネキン実習（キュレット型）
5	下顎右側臼歯部のマネキン実習（キュレット型）
6	上顎左側臼歯部のマネキン実習（キュレット型）
7	上顎右側臼歯部のマネキン実習（キュレット型）
8	全顎のマネキン実習
9	実技試験
10	歯周ポケット検査相互実習（CPI）
11	【講義】シャープニング・歯面研磨・歯面清掃について
12	手用スケーラーのシャープニング実習
13	【講義】超音波スケーラー・エアスケーラーについて
14・15	超音波スケーラー・エアスケーラーのマネキン実習
16	歯面研磨・歯面清掃のマネキン実習
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	
最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」	
評価の方法	
筆記試験と、実技試験の両試験に合格すること	
備考	

科目名	歯科予防処置論Ⅳ																																																		
学年	2年次																																																		
単位	3単位																																																		
時間数	96時間（24回）																																																		
学習目標	<p>基礎実習とマネキン実習で身につけた技術を使って相互実習をする事で、実践で活かせる技術を習得する。又、術者役、補助者役、患者役の経験を通じて、それぞれの立場での心構えや技術を習得する。</p> <p>口腔内診査の方法を理解し、口腔内を観察できる能力を養う。</p> <p>超音波スケーラー・エアースケーラーの操作法を習得する。</p> <p>PMTCの方法を習得する。</p>																																																		
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>相互実習の為の基礎知識、感染予防、偶発事故の予防とその対策</td> <td>13</td> <td>超音波スケーラー</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>14</td> <td>実技試験練習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>実習事前準備・口腔内診査について</td> <td>15</td> <td>超音波・エアー・PMTC 説明</td> </tr> <tr> <td></td> <td>プロービングの仕方の練習、</td> <td>16・17</td> <td>超音波スケーラー相互実習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>口腔内診査の相互実習</td> <td>18</td> <td>歯面研磨（前歯部）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>上顎前歯部の相互実習</td> <td>19・20</td> <td>エアースケーラー相互実習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>下顎前歯部の相互実習</td> <td>21</td> <td>PMTC（臼歯部）</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>下顎右側臼歯部の相互実習</td> <td>22</td> <td>実技試験練習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>下顎左側臼歯部の相互実習</td> <td>23</td> <td>模擬患者実習に向けての相互実習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>上顎右側臼歯部の相互実習</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>上顎左側臼歯部の相互実習</td> <td>24</td> <td>模擬患者実習にむけてのプレ実習（1年生対象）</td> </tr> <tr> <td>10～12</td> <td>マネキン実習</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			1	相互実習の為の基礎知識、感染予防、偶発事故の予防とその対策	13	超音波スケーラー			14	実技試験練習	2	実習事前準備・口腔内診査について	15	超音波・エアー・PMTC 説明		プロービングの仕方の練習、	16・17	超音波スケーラー相互実習	3	口腔内診査の相互実習	18	歯面研磨（前歯部）	4	上顎前歯部の相互実習	19・20	エアースケーラー相互実習	5	下顎前歯部の相互実習	21	PMTC（臼歯部）	6	下顎右側臼歯部の相互実習	22	実技試験練習	7	下顎左側臼歯部の相互実習	23	模擬患者実習に向けての相互実習	8	上顎右側臼歯部の相互実習			9	上顎左側臼歯部の相互実習	24	模擬患者実習にむけてのプレ実習（1年生対象）	10～12	マネキン実習		
1	相互実習の為の基礎知識、感染予防、偶発事故の予防とその対策	13	超音波スケーラー																																																
		14	実技試験練習																																																
2	実習事前準備・口腔内診査について	15	超音波・エアー・PMTC 説明																																																
	プロービングの仕方の練習、	16・17	超音波スケーラー相互実習																																																
3	口腔内診査の相互実習	18	歯面研磨（前歯部）																																																
4	上顎前歯部の相互実習	19・20	エアースケーラー相互実習																																																
5	下顎前歯部の相互実習	21	PMTC（臼歯部）																																																
6	下顎右側臼歯部の相互実習	22	実技試験練習																																																
7	下顎左側臼歯部の相互実習	23	模擬患者実習に向けての相互実習																																																
8	上顎右側臼歯部の相互実習																																																		
9	上顎左側臼歯部の相互実習	24	模擬患者実習にむけてのプレ実習（1年生対象）																																																
10～12	マネキン実習																																																		
授業形式	講義・実習																																																		
教科書・参考書	最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」																																																		
評価の方法	筆記試験																																																		
備考																																																			

科目名	歯科予防処置論Ⅴ
学年	3年次
単位	1単位
時間数	30時間（8回）
学習目標	<p>基礎実習・相互実習で習得した手技を、臨床に即した実習の中で展開させ、臨床現場で実践できる能力を養う。</p> <p>対象者の状況を把握し、メンテナンスやSPTの方向づけができる能力を養う。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 模擬患者実習オリエンテーション 2 患者実習における口腔内診査と情報収集について 3 模擬患者実習に向けての相互実習 4 模擬患者実習 1回目 アセスメント（情報収集） 5 模擬患者実習に向けての相互実習 6 模擬患者実習 2回目 歯科衛生介入 7 メンテナンス・SPTについて 8 臨床での歯科衛生活動（実施計画立案・継続管理について）
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」
評価の方法	
筆記試験	
備考	歯科保健指導論Ⅲと並行して実施する。

科目名	歯科保健指導論 I
学年	1 年生
単位	2 単位
時間数	40 時間 (10 回)
学習目標	1. 歯科保健の概念を理解し、基本的な歯科保健指導の知識と技術の習得をめざす。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科保健について (概念・基本的用語・関係法令) 2. 口腔の正常像の理解 3. 初期病変の理解・顎運動・歯科心身症・主な歯科治療について 4. 口腔内観察方法について 5. 口腔清掃指導法について (ブラッシング方法・補助清掃用具の種類使用方法など) 6. 口腔内の評価指標について (PCR・OHI) 7. 口腔内観察実習 8. 口腔内の評価指標について (その他の指数) 9. 情報収集と処理について (う蝕活動性試験) 10. 口腔清掃実習 (歯の汚れの観察方法も含む)
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	<p>最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」 (医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「保健生態学」 (医歯薬出版)</p>
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	歯科保健指導論Ⅱ
学年	1年生
単位	2単位
時間数	60時間（15回）
学習目標	
1. ライフステージ別に口腔環境の実際を理解し、生活背景を理解した上で望ましい歯科保健行動を指導できる知識と技術の習得をめざす。	
授業計画	
講義	
1. 歯科保健行動について（日常生活と歯科保健の関係）	
2. 食生活指導のための基礎知識	
3. ライフステージ別の口腔環境変化・生活環境変化 （摂食嚥下機能の基礎知識を含む）	
4. ライフステージ別の歯科保健行動（妊産婦）	
5. ライフステージ別の歯科保健行動（乳幼児期）	
6. ライフステージ別の歯科保健行動（学童）	
7. ライフステージ別の歯科保健行動（青年期）	
8. ライフステージ別の歯科保健行動（成人期）	
9. ライフステージ別の歯科保健行動（老年期）	
10. ライフステージ別の歯科保健行動（要介護老人・心身障害者）	
実習	
1. 相互実習	
・ブラッシング技術の確認	
・ライフステージに合わせた歯科保健指導の実施	
・カリエスリスクテストを用いた歯科保健指導の実施	
2. マナボットを用いた口腔衛生管理の実習	
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	
最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」（医歯薬出版）	
最新歯科衛生士教本 「保健生態学」（医歯薬出版）	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	歯科保健指導論Ⅲ
学年	2年生
単位	3単位
時間数	96時間（24回）
学習目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 的確に対象者の把握とその情報整理が行え、対象者の問題解決プロセスを組み立てることができる知識と技術の習得をめざす。 2. 業務記録を作成する知識と技術の習得をめざす。 3. 小集団指導の知識と技術の習得をめざす。 4. 配慮を要する者へ口腔衛生管理を実施する際の知識と技術の習得をめざす。 	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科保健指導の考え方と手順 2. 地域歯科保健活動 <ul style="list-style-type: none"> ・小集団への歯科保健指導（指導の考え方・場の把握・媒体など） ・対象集団別の指導内容の選択 3. 歯科衛生過程の進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の把握・アセスメント ・解釈・分析・歯科衛生診断 ・歯科衛生計画立案 ・歯科衛生評価 4. 面接・問診法について <ul style="list-style-type: none"> ・診療録と業務記録について 5. 配慮を要する者への歯科衛生士介入 （口腔機能管理の実施方法・口腔衛生管理で使用する器具の選択、使用方法・Manabot 実習） 	
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	
最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本 「保健生態学」（医歯薬出版） 「歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション」（医歯薬出版） 「よくわかる歯科衛生過程」（医歯薬出版）	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	歯科保健指導論Ⅳ	
学年	3年生前期	
単位	1単位	
時間数	30時間（8回）	
学習目標	<p>今まで学んだ知識を生かし、歯科衛生過程の考え方を取り入れた症例検討の知識と技術の習得をめざす。</p>	
授業計画	<p>※歯科予防処置論Ⅴの模擬患者実習と連動して進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科衛生過程・アセスメント（情報収集・処理）について 2. アセスメント（情報分析）・歯科衛生診断 3. 歯科衛生計画立案 4. 歯科衛生評価 5. 症例検討と報告作成 6. 症例報告（1人10分） <p style="text-align: right;">} 模擬患者実習の内容を使用し展開</p>	
授業形式		
講義		
教科書・参考書	<p>最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」（医歯薬出版）</p> <p>最新歯科衛生士教本 「保健生態学」（医歯薬出版）</p> <p>「よくわかる歯科衛生過程」（医歯薬出版）</p>	
評価の方法		
プレゼン資料・レポート提出		
備考	<p>歯科予防処置論Ⅴと並行して実施する。</p> <p>歯科予防処置論Ⅴで実習した模擬患者の症例を検討していく。</p>	

科目名	歯科診療補助論 I
学年	1 年生
単位	2 単位
時間数	3 2 時間 (8 回)
学習目標	歯科診療補助の概念を理解するとともに、歯科診療の補助のために必要な基礎知識技術および態度を習得する
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科診療補助の概念 歯科診療の補助 法的責任 2. 歯科用チェアユニットの構造・機能 3. 医療安全と感染予防 リスクアセスメント 滅菌・消毒・洗浄の定義 4. 共同動作の概念 術者・補助者・患者のポジショニング 5. 患者誘導実習 個人防護について 6. 薬品・歯科材料の管理 診療室の環境 7. 医療安全対策および医療廃棄物の取り扱い 8. 使用器材・器械のメンテナンス <p>まとめ</p>
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	<p>最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」(医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科機器」(医歯薬出版)</p> <p>「歯科医療における国際基準 感染予防対策テキスト滅菌・消毒・洗浄」(医歯薬出版)</p>
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	歯科診療補助論Ⅱ
学年	1年生
単位	1単位
時間数	40時間（10回）
学習目標	共同動作の意義を理解し、安全・確実に実施できる知識・技術を習得する
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔内洗浄・バキューム操作について 実習 2. 衛生材料（綿球 綿花 ガーゼ）作成実習 3. 器具の受け渡しについて 4. ラバーダム防湿実習 5. 歯科診療で扱う歯科材料 印象採得 歯科用石膏 6. アルジネート印象材による概形印象採得、石膏模型作成 1 7. アルジネート印象材による概形印象採得、石膏模型作成 2 8. アルジネート印象材による概形印象採得、石膏模型作成 3 9. アルジネート印象材による概形印象採得、石膏模型作成 4 10. アルジネート印象材による概形印象採得、石膏模型作成 5
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」（医歯薬出版）
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	歯科診療補助論Ⅲ
学年	2年生
単位	2単位
時間数	60時間（15回）
学習目標	共同動作の意義を理解し、安全・確実に実施できる知識・技術を習得する
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔内写真の必要性と役割 2. 口腔内写真撮影実習1 3. 口腔内写真撮影実習2 4. 保存修復時の診療補助 5. 歯内療法時の診療補助 6. 歯周外科治療時の診療補助 7. 補綴治療時の診療補助 8. 口腔外科治療時の診療補助 9. 矯正治療時の診療補助 10. 小児歯科治療時の診療補助 11. トレーセッティング実習1 12. トレーセッティング実習2 13. 主な全身疾患とその対応 14. 周術期における歯科診療の補助、歯科訪問診療における対応 15. 暫間被覆冠作製実習
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	<p>最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」（医歯薬出版）</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科機器」（医歯薬出版）</p>
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	臨床検査学
学 年	2 学年
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間 (4 回)
学習目標	
<p>慢性疾患を有している患者の歯科治療の機会が増加している。このような患者に最初に接することが多い歯科衛生士が患者とのコミュニケーションを良好に保つために、臨床検査の概要を把握するとともに、歯科来院患者で比較的遭遇することの多い疾患とその検査法、および検査データが示す意味を理解する。</p>	
授業計画	
<p>【講義】 臨床検査学総論 生体検査と検体検査 検査成績の読み方 各論—検体検査 (1) 一般検査……尿 血液検査……血球 各論—検体検査 (2) 血液生化学検査、免疫検査……血漿 肝機能、糖尿病、感染症 各論—検体検査 (3) 病理検査……組織・細胞 口腔領域の臨床検査</p> <p>【実習】 糖負荷試験 (血糖値測定)</p>	
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	
最新歯科衛生士教本 臨床検査 (医歯薬出版)	
評価の方法	
歯科衛生士国家試験に準じた MCQ 形式の問題にて総括的評価を行う。	
備考	
将来受験する歯科衛生士国家試験のために有用なノートを丁寧に作成すること。	

科目名	歯科材料学 I
学年	2 年生
単位	1 単位
時間数	2 4 時間 (6 回)
学習目標	
一般目標 歯科衛生士としての資質を高め、業務を円滑に行うため、歯科材料の種類、目的、用途について基礎知識を習得する。	
授業計画	
1. 歯科材料と歯科衛生士・歯科材料の基礎知識 2. 歯科衛生にかかわる材料・成形修復材 3. 印象材 4. 模型用材料・合着剤と接着剤 5. 仮封材・暫間修復材と仮着用セメント・ワックス 6. 金属・セラミック・その他の歯科材料 7. 復習講義	
授業形式	
講義(スライド講義・パワーポイント)	
教科書・参考書	
歯科材料	
評価の方法	
単位試験にて評価 60 点以上合格	
備考	

科目名	歯科材料学Ⅱ
学年	2年生
単位	1単位
時間数	40時間（10回）
学習目標	歯科材料学Ⅰで学習した各材料の組成、性状を十分理解したうえで、確実な取扱い方法を習得する
授業計画	1. 模型用材料実習 2. 合着材実習 3. 接着材実習 4. 仮封材・仮着材実習 5. 歯科保存にかかわる材料、歯科補綴にかかわる材料 6. 印象材の取り扱い実習 7～10. 印象採得・石膏注入実習
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本「歯科材料」（医歯薬出版）
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	感染予防
学 年	2年次
単 位	1単位
時間数	16時間（4回）
学習目標	感染予防の重要性を認識し、施設内感染の複雑・多様化に対応できる知識を身につける
授業計画	<ol style="list-style-type: none">1. 感染予防対策の基本 スタンダードプレコーション2. 滅菌・消毒・洗浄の基本3. 歯科診療における感染予防対策の実際 医療廃棄物の処理4. 医療従事者の感染予防対策
授業形式	講義とパワーポイントによる画像閲覧、動画による感染対策の確認
教科書・参考書	歯科医療における国際標準 感染予防対策テキスト（医歯薬出版）
評価の方法	筆記試験
備考	

科目名	高齢者歯科
学 年	2年次
単 位	1単位
時間数	28時間(7回)
学習目標	高齢者は全身的・心理的・社会的において一般成人と同等に扱うことは出来ない。歯科領域でも同じである。そこで歯科衛生士として必要な高齢者の特徴を理解し、高齢者に対する歯科診療の介助、口腔ケアおよび対応について習得する。
授業計画	<p>1回 高齢者を取り巻く社会と加齢の科学 高齢化の現状と将来、老化の定義・機序、高齢者の組織・器官・身体機能の変化、顎口腔系の加齢的变化 など</p> <p>2回 高齢者における口腔領域の疾患 高齢者のう蝕・歯内疾患・歯周疾患の特徴、高齢者に多い口腔粘膜疾患、口腔乾燥症について など</p> <p>3回 全身状態の把握と対応 高齢患者とのコミュニケーション・医療面接・介助 高齢者に多い全身疾患と口腔・歯科治療との関係 など</p> <p>4回 高齢者歯科医療の場 生活自立度、介護保険法、介護保険法の創設・背景と現状、介護予防、訪問歯科診療の意義 など</p> <p>5回 口腔衛生管理 口腔ケアの定義・効果、要介護者および介護者の口腔ケアとの関わり 終末期の口腔ケア、義歯の取り扱い方法 など</p> <p>6回 摂食嚥下障害と対応(概要) 摂食嚥下機能、摂食嚥下障害、摂食嚥下障害の検査法、摂食嚥下障害への対応、構音障害への対応 など</p> <p>7回 高齢者の栄養管理と他職種連携 高齢者の栄養管理、栄養サポートチーム(NST)の役割 他職種連携 など</p>
授業形式	
講義 実習	
教科書・参考書	
高齢者歯科	
評価の方法	
筆記試験による点数にて評価	
備考	

科目名	摂食嚥下リハビリテーション学
学 年	3 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間 (4 回)
学習目標	<p>歯科衛生士として摂食嚥下に関わる機能の獲得や障害について理解し、リハビリテーションやチームアプローチの方法を習得する。また、口腔機能低下についての理解を深める。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食・嚥下について (辻本先生) <ul style="list-style-type: none"> ・摂食・嚥下のメカニズム ・摂食・嚥下障害とは：原因となるもの 影響を与える薬剤 2. 摂食嚥下障害の基礎知識 (貴島先生) 3. 口腔機能低下と口腔機能療法について (貴島先生) <ul style="list-style-type: none"> ・口腔機能低下症とは ・測定の方法、使用器具 ・口腔機能療法とは 4. 摂食・嚥下障害について (瀬尾先生) <ul style="list-style-type: none"> ・摂食嚥下の解剖・生理 ・スクリーニングテスト・モニター ・嚥下造影検査 (VF) について ・摂食嚥下訓練の実際
授業形式	
講義	
教科書・参考書	
評価の方法	
出席状況により評価	
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	障害者歯科
学 年	2年次
単 位	1単位
時間数	20時間（5回）
学習目標	
<p>一般歯科医院においても障がい者の歯科治療の機会が多く、障害者歯科学の必要性は高い。しかし、障がい者の歯科治療や口腔ケアを行う際には、より専門的な配慮が必要となる。歯科衛生士や歯科技工士が歯科医師とともに障がい者の歯科治療を補助し、口腔の健康を維持・向上するためには、「障害」の概念を理解した上で、さまざまな障害を体系的に把握し、さらに、その詳細について理解して、障がい者に対して行う基本的な治療方法を知る必要がある。この科目では、講義によって歯科医療人として必要な障害者の知識を習得するとともに、医療現場において、障がい者に対し適切に対応して治療を行うための知識を身に付ける。</p>	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 障がい者歯科総論（障害の概念、障がい者の保健・医療・福祉の仕組み） 2. 障害の種類Ⅰ 3. 障害の種類Ⅱ 4. 障害のある人への行動調整 5. 障害者の口腔衛生管理 	
授業形式	
<ol style="list-style-type: none"> 1 教科書に基づく講義 2. Power Point での写真等を用いた説明 	
教科書・参考書	
歯科衛生学シリーズ 障害者歯科（医歯薬出版）	
評価の方法	
<p>授業態度、課題レポートおよび単位試験を行い総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業態度……10% ・ 科目試験……90% 	
備考	
障がい者の歯科治療では、一般の患者以上に配慮が必要となります。臨床実習でもしっかりと対応できるように学修してください。	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	臨床実習 I
学 年	1 年生 後期
単 位	1 単位
時間数	4 5 時間 (8 回)
一般目標	
<p>歯科診療所での見学実習を通して、医療人としての心構えや姿勢を学ぶ。 歯科治療の流れや歯科衛生業務を見学し、2 年次から開始する臨床講義の理解を深める。</p>	
行動目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人としてふさわしい身だしなみを整えることができる 2. 清潔・不潔の概念を理解し感染予防ができる 3. 歯科治療の流れを理解する 4. 患者誘導をする 	
実習施設	
歯科診療所	
備考	
<p>実習 (評価の方法) 出席率及び到達度評価</p>	

科目名	臨床実習Ⅱ
学 年	3年生 前期
単 位	3単位
時間数	135時間 (23回)
一般目標	大学病院の特性を理解し、各診療科において知識・技術を身につける。 また清潔・不潔の概念を踏まえ大学病院での感染予防対策を学ぶ。
行動目標	1. 医療人としてふさわしい身だしなみを整えることができる 2. 各診療科の治療内容を説明することができる 3. 器材の準備ができる 4. 標準予防策を説明することができる 5. 清潔・不潔の概念を理解し感染予防ができる
実習施設	大阪歯科大学附属病院
備考	実習 (評価の方法) 出席率及び到達度評価

実務経験のある教員による授業科目

科目名	臨床実習Ⅲ
学 年	3年生 前期・後期
単 位	3単位
時間数	135時間(23回)
一般目標	
<p>一般病院の特性を理解し、歯科・口腔外科に必要な知識・技術を身につける。 また清潔・不潔の概念を踏まえ病院での感染予防対策を学ぶ。</p>	
行動目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人としてふさわしい身だしなみを整えることができる 2. 歯科・口腔外科の治療内容を説明することができる 3. 器材の準備ができる 4. 標準予防策を説明することができる 5. 清潔・不潔の概念を理解し感染予防ができる 	
実習施設	
<p>奈良県立医科大学附属病院 天理よろづ相談所病院 奈良春日病院 平成記念病院 服部記念病院 高井病院 奈良県総合医療センター</p>	
備考	
<p>実習 (評価の方法) 出席率及び到達度評価</p>	

科目名	臨床実習Ⅳ
学 年	2年生・後期
単 位	5単位
時間数	225時間（38回）
一般目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人としての倫理観を養い、良い対人関係を保つためのコミュニケーション能力を身につける 2. 診療目的および内容を理解し、基本的な共同動作を習得する 3. 歯科治療で使用する材料、薬品の性質を理解する 4. 感染予防に対する知識を習得し、安全に医療が行える技術を身につける 	
行動目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人として適切な身だしなみを整えることができる 2. 対象者に応じた正しい敬語や挨拶、返事ができる 3. 患者にいたわりを持ち、良好なコミュニケーションを図ることができる 4. スタッフと良好な関係を築き、協力して仕事を進めることができる 5. 歯科治療の術式および器材の用途を述べるができる 6. 器材の準備ができる 7. 適切なバキューム操作ができる 8. 標準予防策を説明することができる 9. 診療所内のルールに則り感染予防ができる 10. 診療室内の環境を整えることができる 	
実習施設	
歯科診療所	
備考	
<p>実習 (評価の方法) 出席率及び到達度評価</p>	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	臨床実習Ⅴ
学 年	3年生 前期・後期
単 位	7単位
時間数	315時間（45回）
一般目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療現場における歯科衛生士の使命を理解する 2. 患者をより理解するためのコミュニケーション技術を身につける 4. 歯科医療現場におけるチームアプローチを理解する 5. 診療補助業務を適切に遂行し、応用展開できる能力を身につける 6. う蝕と歯周病の基礎知識を基に、予防業務が適切に行える能力を身につける 7. 各ライフステージにおける歯科保健行動を指導する能力を身につける 8. 歯科衛生プロセスを理解し、論理的思考能力を養う 	
行動目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の状態に応じて適切な援助ができる 2. 言語的・非言語的コミュニケーションを効果的に行うことができる 3. 自ら進んで問題解決に結びつく行動を起こすことができる 4. 口腔を観察し状態を把握できる 5. 状況を判断し適切な診療補助ができる 6. 対象に応じた予防業務ができる 7. 対象に応じた保健業務ができる 8. 対象に応じた歯科衛生プロセスを構築することができる 	
実習施設	
歯科診療所	
備考	
実習 （評価の方法）出席率及び到達度評価	

科目名	臨地実習
学 年	3 年生
単 位	2 単位
時間数	90 時間 (15 回)
一般目標	
各臨地実習施設での歯科衛生士の役割を理解し、活動の場を知る。 多職種との連携において、歯科衛生士の専門性がどのように活かされているかを理解し チームアプローチを学ぶ。	
行動目標	
1. 医療人としてふさわしい身だしなみを整えることができる 2. 各実習施設において歯科衛生士の役割を説明することができる 3. 対象者に応じた歯と口腔の健康支援ができる 4. 多職種の専門性を理解し、協働することができる	
実習施設	
心身障害者歯科 障害者施設 県下保健所 幼稚園 介護施設 自衛隊幹部候補生学校 ほか	
備考	
実習 (評価の方法) 出席率及び到達度評価	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	介護技術
学 年	2年次
単 位	1単位
時間数	30時間（8回）
学習目標	高齢期を迎える前からの健康管理への備えや地域での高齢者支援を学び、自立に向けた高齢者介護の知識・技術を習得する
授業計画	<p>1. 高齢者の健康と安全 健康な高齢者を目指して、高齢者の理解、事故の予防と手当・急病への対応</p> <p>2. 地域における高齢者支援 支援活動とは、支援活動における高齢者の理解、支援活動にあたって ほか</p> <p>3. 日常生活における介護 介護にあたって、居室の環境、移動、車椅子への移乗、食事、排泄 着替え、清潔、認知症高齢者への対応、床ずれについて ほか</p> <p>4. 県営福祉パーク見学</p>
授業形式	講義・演習
教科書・参考書	健康生活支援講習テキスト（日本赤十字社）
評価の方法	認定試験（40分）
備考	

科目名	看護概論			
学 年	2年次			
単 位	1単位			
時間数	16時間（4回）			
学習目標	<p>1. 看護の概念の学習を通して、歯科衛生士の職業観を育む機会とする。</p> <p>2. 歯科衛生士の業務に用いることのできる看護の対象の理解・看護の方法・看護技術を学び、臨床の場で対象に応じた援助ができる力を身につける</p> <p>3. 地域での看護の活動を学び、チームケアの意義・多職種との連携・制度の活用を理解し、歯科衛生士の役割・活動分野の拡大について考えることができる。</p>			
授業計画	<table border="1"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>I. 看護の概念</p> <p>1. 看護の歴史</p> <p>2. 看護とは（定義）</p> <p>3. 健康の概念</p> <p>4. 看護の対象</p> <p>5. 看護の方法</p> <p>6. 看護活動の場</p> <p>7. 歯科衛生士の役割</p> <p>II. 看護の方法論</p> <p>1. 看護過程と記録</p> <p>2. 観察の技術</p> <p>3. コミュニケーション</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>4. 対象者別の接し方</p> <p>5. 安全・安楽を守る技術</p> <p>6. 日常生活の援助技術</p> <p>7. 診療時の補助技術</p> <p>8. 緊急時の対応</p> <p>9. 状況別看護</p> <p>III. 在宅看護</p> <p>1. 在宅医療を必要とする社会的背景と施策</p> <p>2. 高齢者を支える制度と社会資源</p> <p>3. 保健・福祉・医療チームの連携</p> <p>4. 訪問の実際</p> <p>□. 吸引の技術演習</p> </td> </tr> </table>		<p>I. 看護の概念</p> <p>1. 看護の歴史</p> <p>2. 看護とは（定義）</p> <p>3. 健康の概念</p> <p>4. 看護の対象</p> <p>5. 看護の方法</p> <p>6. 看護活動の場</p> <p>7. 歯科衛生士の役割</p> <p>II. 看護の方法論</p> <p>1. 看護過程と記録</p> <p>2. 観察の技術</p> <p>3. コミュニケーション</p>	<p>4. 対象者別の接し方</p> <p>5. 安全・安楽を守る技術</p> <p>6. 日常生活の援助技術</p> <p>7. 診療時の補助技術</p> <p>8. 緊急時の対応</p> <p>9. 状況別看護</p> <p>III. 在宅看護</p> <p>1. 在宅医療を必要とする社会的背景と施策</p> <p>2. 高齢者を支える制度と社会資源</p> <p>3. 保健・福祉・医療チームの連携</p> <p>4. 訪問の実際</p> <p>□. 吸引の技術演習</p>
<p>I. 看護の概念</p> <p>1. 看護の歴史</p> <p>2. 看護とは（定義）</p> <p>3. 健康の概念</p> <p>4. 看護の対象</p> <p>5. 看護の方法</p> <p>6. 看護活動の場</p> <p>7. 歯科衛生士の役割</p> <p>II. 看護の方法論</p> <p>1. 看護過程と記録</p> <p>2. 観察の技術</p> <p>3. コミュニケーション</p>	<p>4. 対象者別の接し方</p> <p>5. 安全・安楽を守る技術</p> <p>6. 日常生活の援助技術</p> <p>7. 診療時の補助技術</p> <p>8. 緊急時の対応</p> <p>9. 状況別看護</p> <p>III. 在宅看護</p> <p>1. 在宅医療を必要とする社会的背景と施策</p> <p>2. 高齢者を支える制度と社会資源</p> <p>3. 保健・福祉・医療チームの連携</p> <p>4. 訪問の実際</p> <p>□. 吸引の技術演習</p>			
授業形式				
講義・GW・演習				
教科書・参考書				
歯科衛生士のための看護学大意（医歯薬出版）				
評価の方法				
筆記試験				
備考				

科目名	情報処理
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	20 時間 (10 回)
学習目標	
<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Office (Word、Excel、PowerPoint) の基本操作を習得し、レポートやプレゼン資料が作成できるようになる。 • Web 版 office とデスクトップ版 office の機能の違いを認識する。 • OneDrive の使い方を習得し、ファイルやフォルダの管理ができるようになる。 	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. Word① (文字の入力 基本的な文書の作成) 2. Word② (図や表を活用した文書の作成) 3. Word③ (表現力をアップする機能の活用) 4. Word④ (Web 版とデスクトップ版の違い) OneDrive の使い方 5. Excel① (表の作成・基本的な関数の利用) 6. Excel② (相対参照と絶対参照・関数の応用) 7. Excel③ (グラフの作成・並べ替え・フィルタ) 8. PowerPoint① (基本操作) 9. PowerPoint② (課題作成) 10. PowerPoint③ (発表) 総復習 (試験対策) 	
授業形式	
コンピュータを使用した実習形式	
教科書・参考書	
「情報リテラシー 入門編」 FOM 出版	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	保険請求事務
学 年	3年次
単 位	1単位
時間数	16時間（4回）
学習目標	
医療保険制度のあり方を学び、診療報酬明細書の記載方法など、歯科衛生士が身につけるべき歯科保険医療の具体的な実務について理解する。	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療保険制度について 2. 福祉医療費助成制度について 3. 社会保険歯科診療報酬点数表の見方 4. カルテ、レセプトに使用できる略称について 5. 診療報酬明細書および請求書について 6. 歯と口の治療管理 7. 用語・指導・管理について 	
授業形式	
講義	
教科書・参考書	
社会保険委員会より準備される資料	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	接遇マナー講習
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間 (8 回)
学習目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代マナーの必要性を感じて頂く。 ・ 社会に出た時に、不自由をしないよう学んで頂く。 ・ 社会でコミュニケーションを上手くとれるようにする。 	
授業計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰にでも必要であり就職してからなどの時期を選ばず必要であることを理解して頂く。 ・ 例えば、敬語などすぐにできると思えるようなことを実際話してもらうことで難しく、以外にできないことを知って頂き、日頃から意識し、訓練が必要であると感じて頂く。 ・ おじぎ、挨拶、敬語、立居振舞いなどの基本的なことから動作を中心に授業を行う。 ・ 基本をふまえて、ビジネスマナーの基本である電話応接、接遇マナーを学んで頂く。 ・ 就職にそなえての面接のマナーをしながら実技を通して今まで学んだ基本ができているかチェックする。 ・ 知識面においても、まとめテストを行うことで確認をする。 	
授業形式	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実技（動作）中心。（実技演習） ・ 対話形式で、一方的に教えるのではなく、できるだけ多くの生徒に質問したり動作をしてもらい、それぞれ考えて頂きながら授業を進める。 	
教科書・参考書	
作成したレジメ使用。	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	音楽
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間 (8 回)
学習目標	
◆音楽を通して、物事の美しさに触れ、心の豊かさを育む。表現活動を楽しみながらコミュニケーション力を高める。歌唱を中心に学び、式典での美しい合唱の披露を目指す。	
授業計画	
1. オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ボディパーカッションや簡単な発声を伴ったウォームアップアクティビティで音楽そのものを楽しむ。 ・心地よい発声を体得する。
2. アンサンブル1 「やまびこ」「君が代」	<ul style="list-style-type: none"> ・カノンで他者とのコミュニケーションを図りながら歌う。 ・「移動ド」とハンドサインについて学ぶ。 ・歌の自然なフレージングを考える。
3. アンサンブル2 「わたしのなかには」 「校歌」	<ul style="list-style-type: none"> ・オスティナートを伴った歌唱でより入り組んだ合唱を体験する。 ・歌詞とメロディーの関係を知る。 ・校歌を覚える。
4. アンサンブル3 「きよしこの夜」他 「蛍の光」	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なタイプの合唱を体験する。 ・簡単なリズム楽器やボディパーカッションを交えて歌う。 ・ハーモニーの概念を理解する。
5. アンサンブル4 「希望のささやき」	<ul style="list-style-type: none"> ・2声で互いの声部を聴き合いながら歌う。
6.7.8. アンサンブル5～7 式典曲を中心に	<ul style="list-style-type: none"> ・式典での歌唱ステージを意識しながらパフォーマンスを高める。 ・個々の個性と全体のまとまりを感じながら合唱を完成させる。
授業形式	
◆合唱・鑑賞（実技演習） リトミック、ボディパーカッション、リスニング、発声、斉唱、合唱	
教科書・参考書	
◆「合唱のイントロダクション～合唱の本当のキソを身に付けよう」 (Brain Choral Edition) ◆創作わらべうた他、補助楽譜（各授業で配布）	
評価の方法	
◆出席点（80点）意欲・態度点（20%）	
備考	
◆リラックスできる服装が望ましい。	

科目名	体育（肩こり腰痛予防体操）
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間（8 回）
学習目標	<p>体を動かしながら腹式呼吸法を取り入れることで、酸素が頭にめぐり日々のストレスを発散させ、リラックス効果を得る。</p> <p>また、肩こり腰痛予防のストレッチ体操や筋力トレーニングを習得することで、疲労回復、肩こり腰痛予防に役立つ。</p>
授業計画（案）	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、ストレッチ体操の説明・実践 2. 自分の身体の状態を把握する（姿勢・バランス） 3. ストレッチ体操の基礎・実践 4. 体幹トレーニングの基礎・実践 5. 有酸素運動の基礎・実践 6. 〃 7. ヨガ・ピラティスの実践、リラクゼーションの基礎と方法 8. 振り返りの実技テスト・まとめ
授業形式	
実技演習	
教科書・参考書	
なし	
評価の方法	
出席点（80%）実技確認（20%）	
備考	